

比較読みを通して作者の思いを捉える【比較する】座標軸

【校種・学年】中学校第2学年

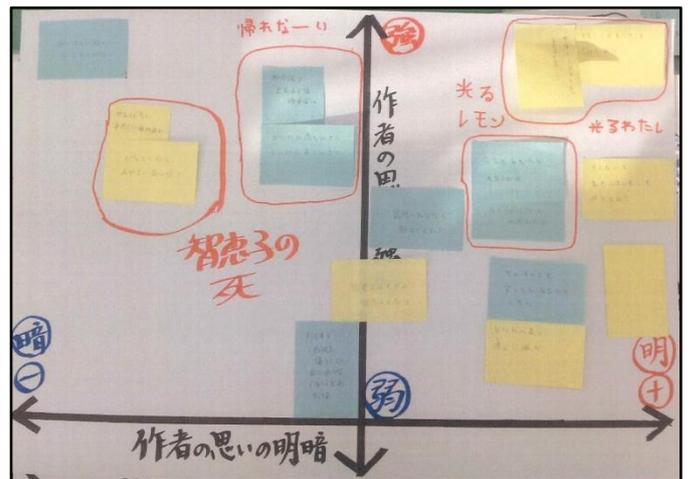
【教科・領域】国語科

【実践の概要】

- 1 単元名 八 考えを交流する「レモン哀歌」 高村光太郎
- 2 単元の目標 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。
- 3 本時の実際
 - (1) 本時の目標 作品と資料を読み比べることで、作者の智恵子に対する愛について自分の考えをもつことができる。
 - (2) 本時の展開

時	主な学習活動	研究の視点
導入	○前時の振り返り 2 作品の表現を比較して、作者の思いに迫ろう。 ・本時の課題を把握する。	
展開	○「レモン哀歌」と米津玄師「Lemon」の表現を比較して、作者の感情と種類を観点として、座標軸にまとめていく。 ○グループで交流しながら、座標軸をもとに「レモン哀歌」に込められた作者の思いについて考える。	研究2 (3) 「思考を表現に置き換える」
終末	○作品から読み取れた作者の愛情を全体で共有する。 「レモン哀歌」には、○○○感情の表現が(多く・少なく)描かれている。なぜなら、~~~~だからだ。	<div style="background-color: #333; color: white; padding: 10px; border-radius: 15px;"> 黄色の付箋（レモン哀歌）が座標の右側（明るい表現）に多く、青色の付箋（Lemon）が座標の左側（暗い表現）が多いことが可視化。 </div>

4 ツールに見られた思考の姿



5 成果と課題

- 座標軸にまとめる活動を通して、興味を持ちながら作品を読むことができた。また、完成したツールを客観的に見ることで、個人で読む際には気づけなかった作者の思いについて考えることができた。
- ツールを活用する目的と手段がつながっているのかの検討を入念に行わなければならないと感じた。ツールを用いることがゴールにはならないと思うので、それをどう活用するのが重要だと感じた。